



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 加藤 忍
(十五夜の日)
令和8年度 10月号
2026. 9. 25

誠樹祭「くりかえす～この時はたった今 この時は一度だけ～」全校合唱♪リフレイン詩

○今回、誠樹祭本番を迎えるまでにいくつもの壁がありました。神様は**試練**をたくさん与えてくれました。乗り越えられない壁はないと信じて、生徒・職員は**変化**に立ち向かっていきました。詩人、童話作家の宮沢賢治さんの「**雨ニモマケズ、風ニモマケズ**」を心の中で何度つぶやいたことか…。

○私の教育信条の1つは、「**中学生の感動体験は、その後の生きる力になる**」です。学習でも、部活でも、読書でも、映画でも、旅行でも、多くの生徒に、この年代のうちに、多くの感動を味わってほしいといつも願っています。丸い月も一夜だけですが…。

○緑が丘に響く『音』が好きでした。体育館からmelerる学年合唱や全校合唱の歌声、長縄数える声、ムカデ笛や掛け声、ソーラン「構え、ハッ」の反響音は勇気もらいました。

○1年生と廊下で交わした会話が秀逸でした。「中学校の学園祭はどう？」と私が尋ねると、「自分たちで動く行事は楽しいです。充実感が最高。こういうのを**主体的**っていうのですね」と私は驚きました。

○文化部門の参観人数は354名、体育部門の参観人数は630名でした。多くの方の来校ありがとうございました。いただいたご意見は、今後の教育活動において可能な範囲で生かしていきたいと思ひます。さて、お知らせです。開閉祭式と文化部門は、**動画配信**があります。近々URLが送られます。10月3日(土)～9日(金)までの限定公開です。



『誠樹祭の挨拶で、私が伝えたかったこと』

(誠樹祭の細かい様子、写真等は学級だよりや HP をご覧ください)

【開祭式で話したこと】

私は数学教師です。誠樹祭に関わるであろう数式を2問出します。**第1問 $1+1=?$** 時には3にもなる。10にもなる。または0にもなる。これは団結や協力、思いやりの数式です。学園祭に悩みはつきもの。集団で取り組むことばかりで、つらかった人も多いことでしょう。でもね、この経験がこれから生きると私は信じています。あなたには支えてくれる友達が必ずいるからね。今日明日、皆さんの **$1+1$** は、いくつになるのでしょうか？ **第2問 $100-1=?$** 実は0になるときがあります。日本のある有名ホテルの総料理長Tさんは「料理とは、手を抜かぬ心によって、こしらえるもの」と考えています。料理の世界では、たったひとつの妥協やごまかしで、味のすべてが台無しになる、つまり0になるといいます。料理人として仕事への誇りがそこには感じられます。誠樹祭をみんなで作るということは、 **$100-1=0$** という料理の世界と似ています。みなさんは、学級や学年でそれぞれ自分の役割があると思ひます。任された役割を、手を抜かないで取り組む、最後までやり遂げる、本気で、そんな姿が見たいです。特に今日の合唱、明日のソーランは、この数式が当てはまると考えます。 **$100-1=0$ ではなく、 $1+1=\infty$ の世界**を期待します。

3年生へ、私は修学旅行出発前に伝えました。**中学時代の思い出ベスト4の存在**を。(4つ紹介) そのひとつがこの2日間です。最後だよ。卒業したら、このような行事はもう経験できない人もいるのです。ソーランリーダーMくんが語った「**完全燃焼**」してください。一番前で踊っているTくんの輝く汗のように…。今年のテーマは「**煌翔**」煌はきらめく。(ちなみに煌は全校で5名、翔は8名の生徒の名前にこの漢字が使われています) 全校で煌翔しよう。高笑しよう…。

【体育の部開会式で話したこと】

苦しかった～。この2週間、天候にとっても悩みました。この3日間の天気が**キセキ**です。当たり前日常がどんなに幸せか痛感させられました。生徒の皆さん、**変化**によく対応してくれました。保護者の皆さん、洗濯や栄養ある食事をありがとうございました。本日、こうやって体育部門ができる喜びに感謝します。さて、嵐のハピネスは、明日へ一歩踏み出す**勇気**、走り出して光や希望を見つける**力強さ**、何気ない日常で前を向く人のエネルギーとなる**優しさ**、が込められています。双中生にはそんな力をもっていてほしいし、今から与えたい！行くぞ～双中のARASHI、集合～！(先生方、集まってダンス)「**走り出せ 走り出せ 明日を迎えに行こう 君だけの音を聞かせてよ 全部感じてるよ 止めないで 止めないで 今を動かす気持ち どんなに小さなつぼみでも 1つだけのハピネス**」体育の部、結果より大切なものがある。順位よりも価値があるものを見つけてください。**458個の煌めき、Happiness**が観たい。最後に、みんなで、**Yeah yeah yeah**～

煌めいた「Happiness シーン」(一部) →→→

右の写真は閉祭式の様子です。学年代表生徒スピーチ3名、生の言葉で語ってみんな良かった。感動したっ。体育館で、色Tシャツ姿で大合唱のあと、くす玉が割れた瞬間の写真です。



部活動結果（8月29日～9月25日）準公式戦ですが、本校生徒の活躍を紹介したくて…



【陸上 北麓カーニバル U-16 最終選考会（8月29日）】

◇男子110mH 第2位 Mさん ◇女子100mH 第6位 Yさん

【ソフトテニス男女 甲斐市協会会長杯（9月5日）】 ◇女子個人 第2位 Oさん

【卓球 県中学校学年別大会（9月13日）】 1年の部シングルス第2位 ダブルス第1位 Mさん



文化コンクール等の結果

【第72回読書感想文コンクール（9月審査）】

読書感想文〈課題図書〉◇県特選 1年Hさん ◇中巨摩入選 2年Mさん

読書感想文〈自由読書〉◇中巨摩入選 2年Uさん 2年Yさん 3年Kさん

甲斐警察署管内交通安全弁論（努力賞）「未来を守る当たり前」

2年 Hさん

「交通事故は自分とは無関係だ。」「仕方がない。」多くの人がそう考えているはずです。ですが、もし交通事故によって自分の大切な人の命が奪われてしまったらどうでしょう。それでもあなたは「仕方がない」「無関係だ」と言えますか？ 僕は過去にこんな経験をしました。コンビニへ向かっているとき、自転車に思い切りぶつかったのです。すぐ目の前には、僕の祖母と同じくらいの年齢のおばあさんが歩いていました。自転車はそのおばあさんにも少しぶつかりました。しかし、自転車に乗っていた人は、おばあさんには迷惑そうな顔を向け、僕には笑いながら謝り、何事もなかったような態度で走り去っていきました。僕は恐ろしくなると同時に、激しい怒りを感じました。ですが、彼はもう自転車に乗って行ってしまったので、注意することもできませんでした。

僕は、なぜ彼があのような行動をとってしまったのか、原因を考えてみることにしました。そして、次のような考えに至りました。それは、交通ルールへの認識不足です。僕とおばあさんは当然歩道を歩いていたのですが、自転車の方も歩道を走っていたのです。交通ルールでは、自転車は車両に入るので、車道の左側を走らないといけません。これは当たり前のことです。しかし、彼はこういったルールの認識が足りていなかったのではないかと思います。もう一つは、相手への思いやりの欠如です。あの時の彼は、スピードを出し過ぎ、そのうえ前を見ていなかったように思います。これは、歩行者の存在を考えられないという、思いやりの不足があったのではないのでしょうか。最近の自転車や自動車の運転を見ると、例えば道の譲り合いになったとき、相手が会釈しないと自分も会釈はしないという、両者の意地の張り合いが見受けられます。思いやりや礼儀を意識して運転すれば、このようなことは起きず、自分も相手も良い気分になれるはずです。

このような経験をすることで、交通事故を起こさないために、今の僕達にできることは何だろうと、改めて考えました。まずは交通ルールをきちんと理解して、友達などに広めていくことです。次に、思いやりや礼儀を大切にすることです。例えば、横断歩道では、止まってくれた自動車の運転手さんへ自分から軽い会釈をする。歩道を歩くときでも、なるべく車道から遠いところを歩く。自動車や自転車では、周囲をよく確認し、歩行者を優先する、などの当たり前のことを確実に実行すれば、交通事故は減るでしょう。「当たり前」だとみなさんは思うかもしれませんが、ですが、その「当たり前」の積み重ねが、僕達一人一人の大切な命を守る、強力でかけがえのない大きな支えになっていくのです。

交通事故は決して他人事ではありません。昨日まで普通に過ごしていた人の人生を、一瞬で変えてしまうものです。これは、被害者はもちろん、加害者の方にも言えることです。僕達中学生は、まだ車を運転することはできません。しかし、十六才から自転車の交通違反に対する青切符が導入されるなど、自転車を利用する人にも責任が求められる時代になっています。だからこそ僕達は、「知らなかった」ではなく、「交通ルールを守るために知る」ということを意識することが大切なのです。交通ルールを守り、思いやりや礼儀を大切にすること。これを「当たり前」のこととして実行することで、交通事故による不幸なニュースが流れない社会を作れると、僕は信じています。それこそが、僕の理想とする社会なのです。



（次回11月号では山梨県防犯弁論大会の作文を掲載する予定です）